

## 早どり栽培と光照射追熟を組合わせた 3色ピーマンの増収技術



写真1 光照射追熟



収穫時



光照射3日後

写真2 早どりした果実の光照射による色の変化 (9月)

表 早どりが3色ピーマンの収量および品質に及ぼす影響

品種	収穫時期	A品果収量		可販果収量		A品 収量 (kg/a)	対果数 A品率 (%)	可販果 収量 (kg/a)	収量比	平均 果重 (g)
		果数 (個/株)	果重 (kg/株)	果数 (個/株)	果重 (kg/株)					
くれない(赤)	早どり	77.9	5.7	96.2	6.6	795	78	915	121	69
	慣行	60.4	4.7	74.8	5.5	648	79	758	100	73
やまぶき(黄)	早どり	73.0	5.7	81.9	6.3	795	85	882	113	78
	慣行	61.5	4.8	71.4	5.6	673	80	779	100	79
にしきおり(橙)	早どり	59.6	5.5	73.8	6.7	762	76	935	126	91
	慣行	46.5	4.5	56.2	5.3	619	75	740	100	94

注) 収量比は、慣行区の面積当たりの可販果収量を100とした時の割合。  
A品率は全収穫果数に対するA品果数の割合。

3色ピーマンは、赤、黄、橙色の3色の果実を1袋に入れて販売する中型パプリカで、嶺北地域を中心に雨よけ夏秋栽培がおこなわれています。しかし、着果が不安定で十分な収量が得られていないのが現状です。一方、カラーピーマン類では未着色果実を収穫後に光照射（蛍光灯、写真1）することによって、着色が促進されることがわかっています（宮城県園芸総合研究所）。

そこで、3色ピーマンを、早どり（1割程度の着色時に収穫）して着果負担を減らし、収穫後に光を照射して追熟させたときの増収効果について検討しました。

まず、1割程度の着色でも、光照射によりすべての果実が販売できるようになりました（写真2）。また、早どりにより、いずれの品種も1果重はやや小さくなりましたが、1株あたりの収穫果数が多くなり、可販果収量は慣行に比べて13～26%、A品収量は18～23%増加しました（表）。

今後は、早どりによる増収要因を詳しく解析し、さらなる収量アップにつなげていきたいと思えます。なお、本研究は、農林水産省「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」の中で実施しています。

（山間試験室 児玉幸信 0887-72-0058）